

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】平成20年4月24日(2008.4.24)

【公開番号】特開2006-286749(P2006-286749A)

【公開日】平成18年10月19日(2006.10.19)

【年通号数】公開・登録公報2006-041

【出願番号】特願2005-101955(P2005-101955)

【国際特許分類】

H 0 1 L 51/50 (2006.01)

C 0 9 K 11/06 (2006.01)

C 0 7 F 9/50 (2006.01)

C 0 7 F 1/08 (2006.01)

【F I】

H 0 5 B 33/14 B

C 0 9 K 11/06 6 6 0

C 0 7 F 9/50

C 0 7 F 1/08 Z

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月6日(2008.3.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

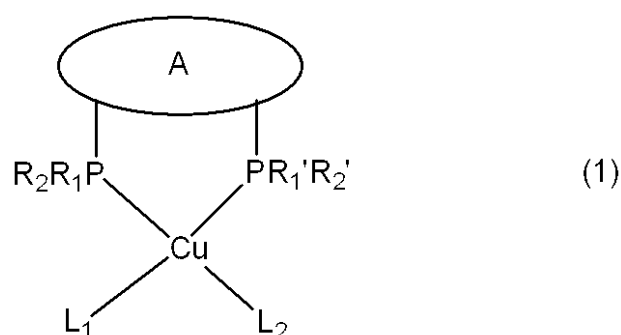
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記一般式(1)で示される部分構造を有する単核の銅配位化合物を発光材料として用いること特徴とする発光素子。

【化 1】



[ Cu は銅イオンであり、 $PR_1R_2APR_1'R_2'$  は 2 座のホスフィン配位子である。

$R_1$ 、 $R_2$ 、 $R_1'$ 、 $R_2'$  は、水素原子、水素原子がハロゲンに置換されても良い炭素数 10 以下の分岐、環状または直鎖状のアルキル基、置換基を有しても良いアルコキシ基、置換基を有しても良い芳香環基、置換基を有しても良いアリーロキシ基、および置換基を有しても良い複素環基であり、それぞれ同じでも異なっても良く、 $R_1$ と $R_2$ 、 $R_1'$ と $R_2'$ は、互いに結合し環を形成してもよい。

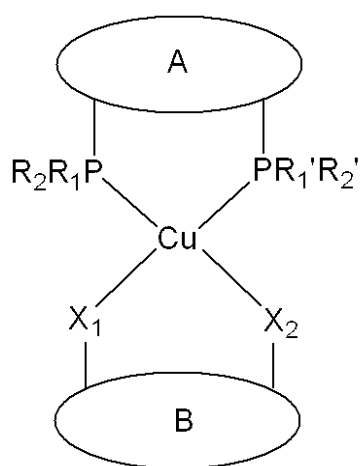
$L_1$ および $L_2$ は炭素、酸素、リン、硫黄、ハロゲンから選ばれる元素を配位原子とする配位子であり、それぞれ同じでも異なってもよい。]

【請求項 2】

前記部分構造が、下記一般式(2)で示されること特徴とする請求項 1 に記載の発光素

子。

【化 2】

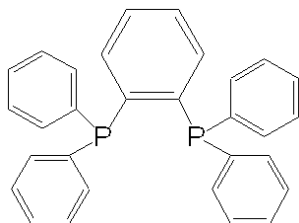


[  $X_1$  B  $X_2$  は 2 座配位子であり、 $X_1$  および  $X_2$  は、炭素、酸素、リン、硫黄から選ばれる原子であり、それぞれ同じでも異なっても良い。]

【請求項 3】

前記 2 座のホスフィン配位子  $PR_1R_2$  A  $PR_1'R_2'$  が下記式 (3) で示されることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の発光素子。

【化 3】



【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

$L_1$  および  $L_2$  は炭素、酸素、リン、硫黄、ハロゲンから選ばれる元素を配位原子とする配位子であり、それぞれ同じでも異なっても良い。]

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

[  $X_1$  B  $X_2$  は 2 座配位子であり、 $X_1$  および  $X_2$  は、炭素、酸素、リン、硫黄から選ばれる原子であり、それぞれ同じでも異なっても良い。]